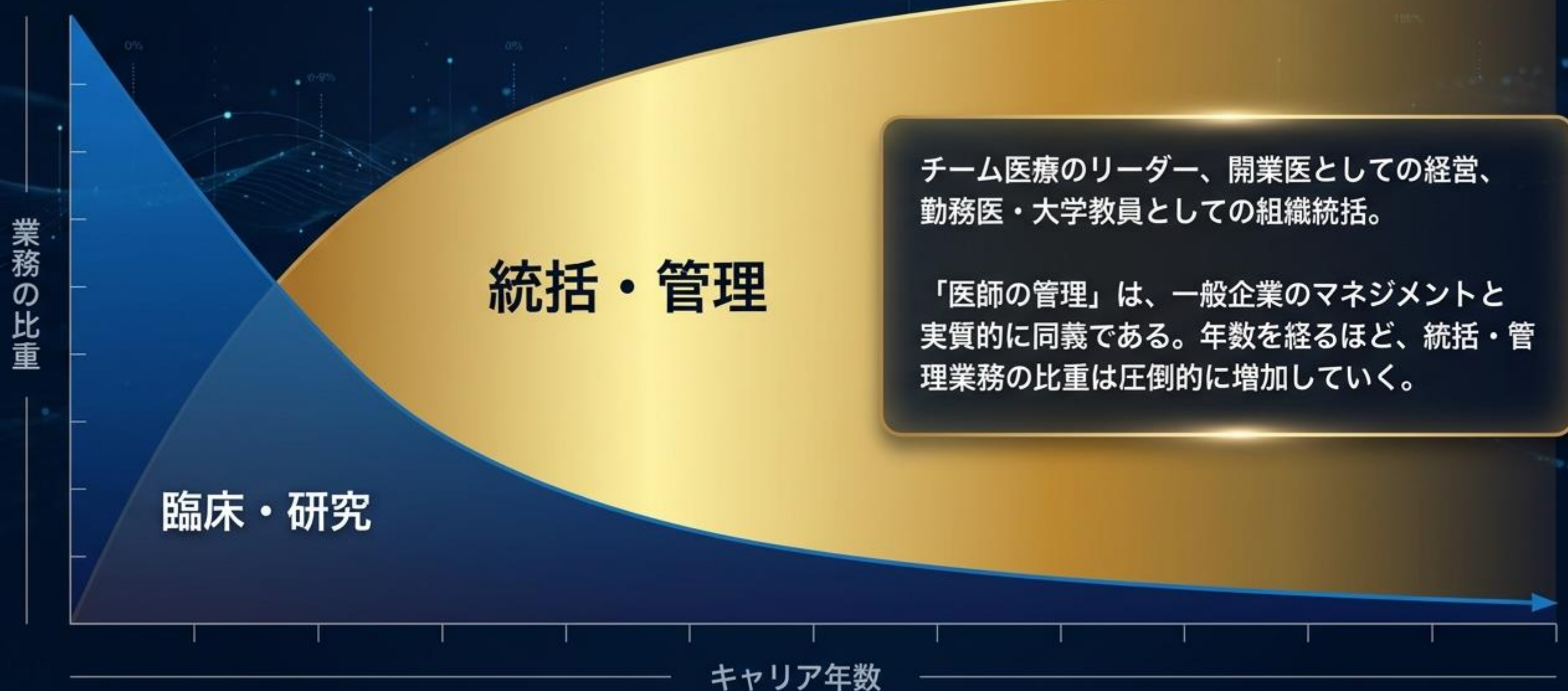


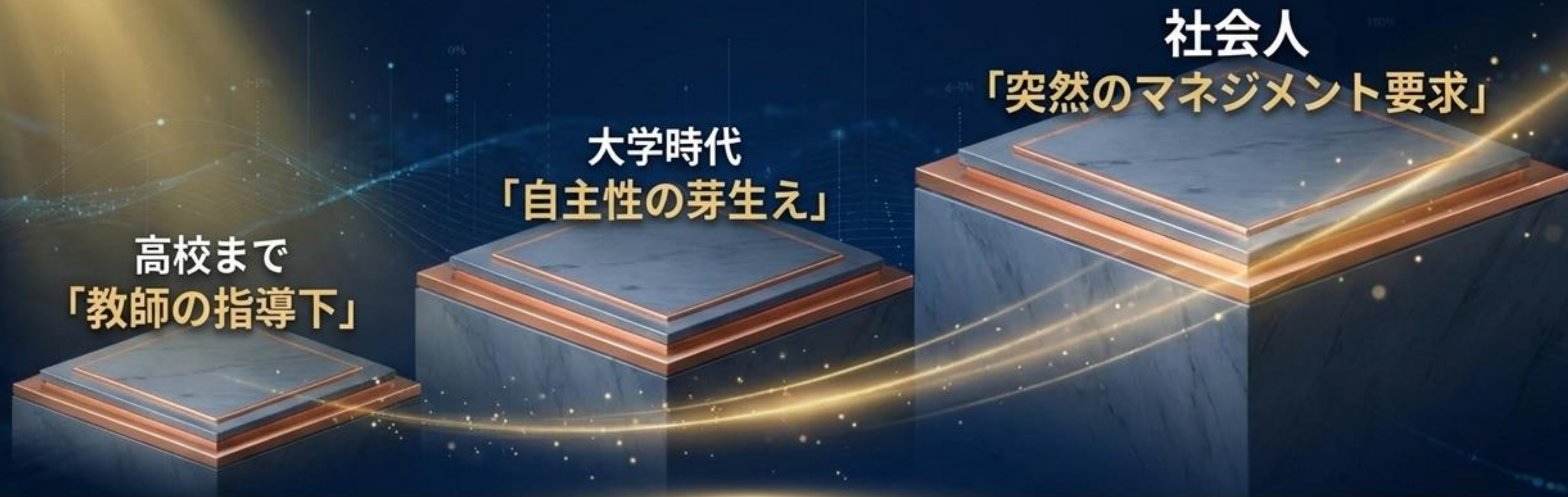
医療組織を牽引する 「無の境地」とマネジメントの流儀

経験、雑用、そして誠実な対処が育む、
持続可能なリーダーシップの設計図

臨床スキルだけでは生き残れない、 医師のキャリアに潜む現実



我々はいつ、組織運営という「社会の縮図」を学ぶのか



- 多くの学生にとって、本格的な統括・管理の経験は大学生の自主的な活動から始まる。
- クラブやサークルの運営には、部員の獲得、資金繰り、メンバー間のトラブル調整といった「社会における組織統括の縮図」が詰まっている。

カリスマ性は天性ではない。3つの要素が交わる中心に宿る

知識と経験に
裏付けられた
「一定の見識」

真のカリスマ性
(人がついてくる力)

客観的に
適切な判断と
「適切な言葉」

率先して困難に対峙する
「統率力」

失敗を減らし、組織を牽引する力は、魔法ではなく確固たる経験と客観性の掛け合わせによって生まれる。

誰もが忌避する「雑用」こそが、 未知の課題を突破する根を張る

初期には誰もが不満を感じる雑用。
しかし、そこから逃げる者は、
後年に直面する複雑で困難な
マネジメント課題に対応する
「根の深さ」を育てられない。

統括・管理に必要な力を
育てていく源泉は、
忌避される業務の中にこそある。

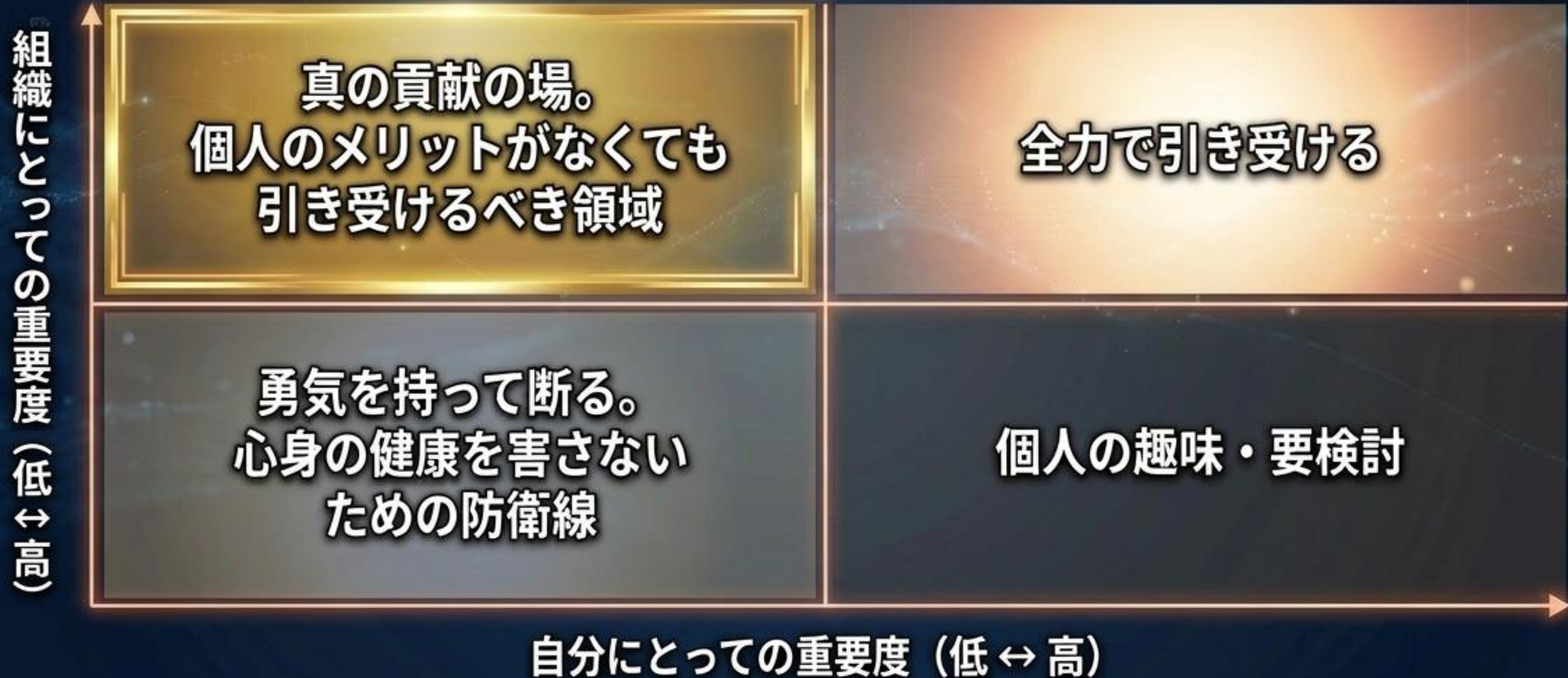
教育・研究・診療の
華やかな成果

膨大な雑用的な業務

葛藤を越えた先にある 「無の境地」への到達プロセス



心身の健康を守りつつ、 真の貢献を果たすためのタスク選別法



基準は「自分の主観」ではなく、「組織からの客観的視点」。必要とされる役目は基本的に引き受けるが、重要度の低いものは断る勇気も必要である。

構成員の「信頼」と「やりがい」を 駆動する4つの柱



リーダーの役割は、構成員が自身の組織内での存在意義を感じ、
自己実現に向かえる環境を意図的に設計することである。

張り詰めた糸は切れる。 持続可能な組織に必須の「適度な余白」

厳格な管理

- 常に緊張状態
- 厳格な管理体制
- 失敗が許されない空気



疲労の蓄積、楽しさの喪失、
モチベーション低下

持続可能な管理

- 適度なリラックス
- 気が抜けた空間
- 時々失敗しても許容される余白



構成員の心理的安全性、
長期的なやりがい、組織の強靱化

厳しく管理されているという雰囲気を作り出すのはデメリットが多い。
適度な「気の抜け」こそが、組織を持続可能にする。

マネジメントに「唯一の正解」は存在しない

自己研鑽

十分な統括・運営
能力を育てる

**誠実なる対処の
積み重ね**

実践

場面場面で物事に
誠実に対処する

統括・運営に完璧な手法や一つの正解など存在しない。
目の前の現実、無の境地で、誠実に向き合い続けること。
その終わりのない軌跡こそが、真のリーダーシップとなる。

持続可能な医療リーダーシップを体現する3つの掟



Embrace the Chores

雑用を「無の境地」で
こなし、組織を支える
基礎体力を鍛えよ。



Objective over Subjective

自己の利益ではなく、
「組織の視点」でタスクの
重要度を 選別せよ。



Flexibility over Rigidity

厳格な管理を捨て、
適度な余白と自己実現の
場を提供せよ。